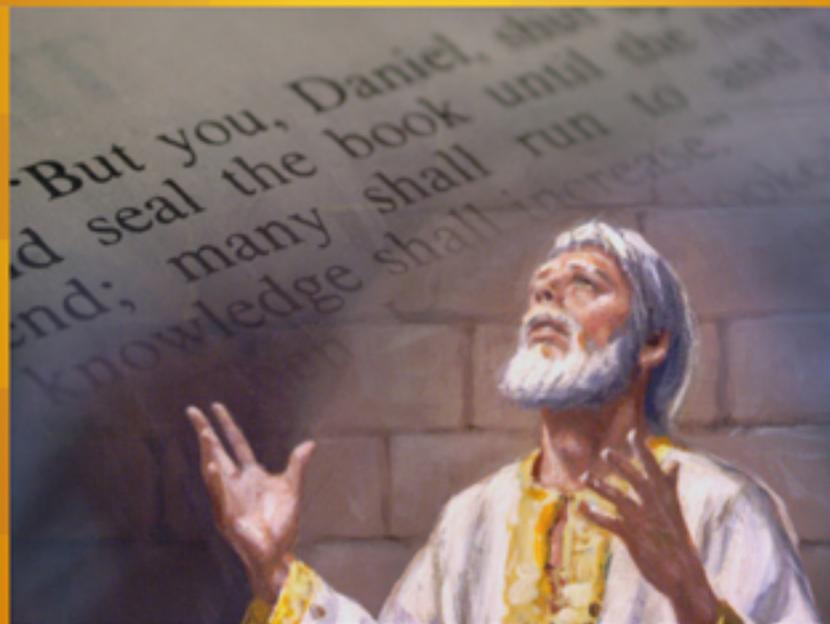


現代の真理シリーズ No.7

PRESENT TRUTH BOOKLET SERIES NO.7

ダニエル12章の研究



現代の真理シリーズ No. 7

ダニエル 1 2 章の研究

金城 重博

目次

Contents

- ダニエル 12 章のタイムラインは
過去にしか適用できないとの主張 …………… 4
- 未来適用の理由 …………… 14
- 黙示録 13 章の 42 か月を
未来に適用している …………… 26
- 神が送られる光を無視することは、
救いと関係があるだろうか？ …………… 30

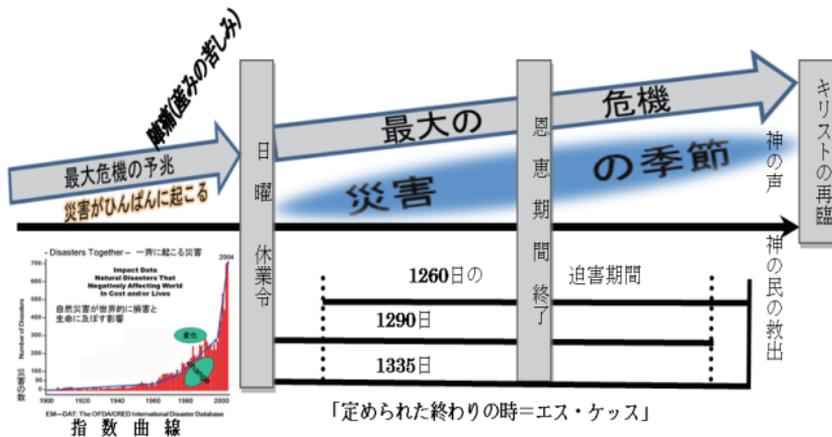
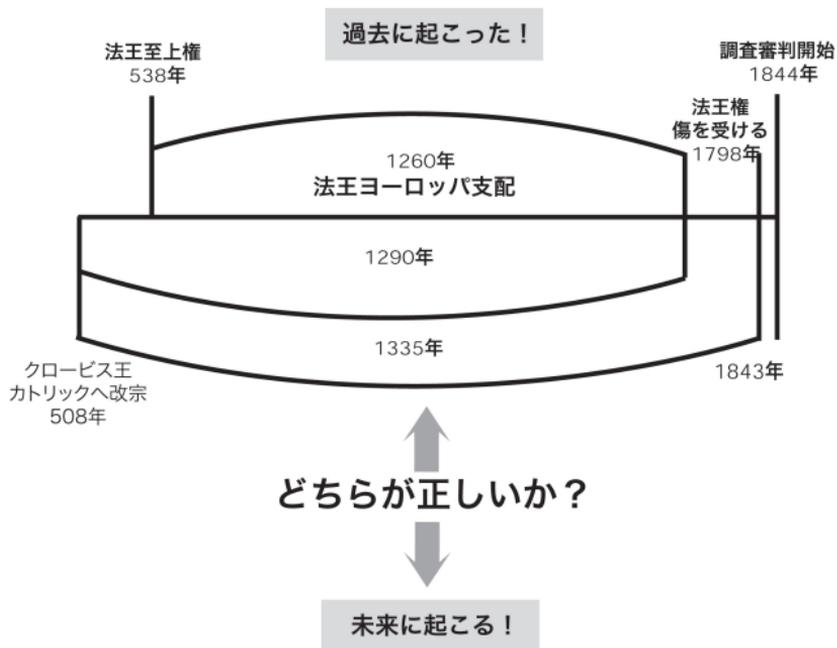
我が教会には大きく分けてイエスの時代のように、二つのグループがある。いや三つのグループがある。

1. 古きよきものをしっかり守るのに汲々とする保守派
2. 古いものを捨てて、新しいものに進むりべラル派
3. 古い真理に堅くたって、絶えず各時代に与えられる新しい真理、光に進む者たち

正しい立場は3番である。

「真理には、どの時代でも新しい発展があった。つまり、時代ごとに、その人々のための特別の神からの使命があった。古い真理はみな重要である。新しい真理は古い真理から切り離されたものでなく、

古いものの解明である。古い真理を理解して始めて、新しい真理を悟ることができる。…真理を新たに解き明かすことによって、輝く光が古いものをいっそう輝かしくする。新しい光を拒んでなおざりにする人は、実は、古いものを持っていない。それは、彼にとって、生きた力を失ったむなしい形式と化してしまうのである」
実物教訓 105、106。



ダニエル 12 章のタイムラインは 過去にしか適用できないとの主張

1. 言葉の用法が同じだから。

ハートランドカレッジ出身のピーター・グレゴリーさんの講演が北中教会であった。土曜日の午後3時から9時までの講演であった。魅力的な声の持ち主である。聖句をよく覚えている。どうして覚えているかと聞いたら、打ち込めばいいんだよということであった。マリアン・ベリーさんの研究に対する反対講演を頼まれたのであった。私は今帰仁に彼を連れていく途中いろいろ話し合った。伝統的な SDA の教えに関して我々は全く同じであった。安息日問題、日曜休業令は日本にもやってくるだろうか、カトリックは変わったか、黙示録 13 章の海獣がカトリックかなどと話し合ったら、「大争闘にはっきり書いているではないか」ということであっ

た。日曜日午前中はダニエル 12 章について話し合った。結局過去のことであり、私の未来適用を受け入れなかった。しかし、お互いに真理を追究するものとしていつか一致することを願ひ別れた。月曜日の晩は、国吉君の家で急遽、聖書翻訳、NIV、新共同訳について話してもらった。全く同感であった。

彼は、他の SDA の多くの者と同じく、ダニエル 12 章を過去のこととする論拠は、言葉の用法にあると言っている。「一時と二時と半時」「常供が取り除かれる」「荒らす憎むべきもの」という用語は、11:31 - 35 の中世時代の預言に見いだされる。ダニエル 12 章のタイムラインも中世時代のことだというのである。確かにそっくりの言葉遣いである。ただし「一時と二時と半時」は 7:25 にもある。

2004 年 4 期安息日学校、研究ガイドの助け、世界総会聖書研究会はダニエル 12 章のタイムラインを未来に適用するのは誤りである、過去に、中世時代に起こったこととしている。

しかし、言葉の用法だけに聖書の解釈を頼るととんでもない間違いを犯すことがある。

たとえば：

大争闘下 141 - 142 を見ると、ダニエル 8：14 のイエスが大祭司として至聖所に「来る」ということ、ダニエル 7：13 の人の子が日の老いたる者のもとに「来る」ということ、マラキ 3：1「契約の使者がたちまち宮に「来る」ということ、マタイ 25 章の 10 人のおとめのたとえで、花婿が婚姻に「来る」ということは、皆同じ事件だと言われている。その「来る」を当時の再臨信徒たちは人の子が栄光の中に天使たちを率いてこの地上に「来る」と考えたのである。同じ「来る」ではあるが全く違った事件であることに気がつかなかったために大失望を経験した。

1. 「**人の子**」という用い方も、人間を指す場合と、イエスを指す場合がある。
2. 「**荒らす憎むべきもの**」という言葉がダニエル書に3回出てくる。9：27と11：31と12：11。同じ言葉であるが、違った事件である。一つは、9：27でエルサレム滅亡のこと、11：31は中世時代のこと、12：11は今をさしておいて、言葉は同じでも違った事件を示している。マタイ24：15にも同じ言葉がある。それはエルサレム滅亡と、未来の日曜休業令のことだとホワイト夫人は言っている。
3. ダニエルが終わりの時に「**立つ**」という言葉も、ホワイト夫人は3通りの使い方をしている。ダニエル書が理解されて証をする事の意。「立った」「立っている」「立つであろう」。1798年以來、ダニエル書が開かれた、開かれている、開かれるであろうと。12章の用語が1：31－35ま

でと同じ語法だから中世時代の事だけだ
とは言えないはずである。

2. 証の書は、時に関する預言は 1844 年以降 はないと言っている。

次の証の書がよく引用される：

「主は、第三天使の使命が、前進し、主の散らされた子供たちに宣言されなければならないが、しかしそれは、時に重点をおくものであってはならないことを、わたしに示された。ある人々は、時についての説教から起きてくる誤った興奮を感じているのを、わたしは見た。しかし、第三天使の使命は、時の力以上に強力なものである。この使命は、それ自体の基盤の上に立つことができるもので、時によって強化される必要がないことを、また、きびしく、すみやかになしとげられることを、わたしは見た」(初代 156)。

「天使が厳粛な誓いをもって宣言しているこ

の時というのは、この世界歴史や恵みの時の終わりではなく、預言的時の終わりのことであり、それは主の再臨に先行するものである。つまり、人々は特定の時について別の使命を持たないであろう。1842年から1844年までに及ぶこの期間の後には、特定の預言的時を追求することはあり得ない。最長の算定は1844年の秋に達する」(スタディーバイブル新 581、MS59, 1900年)。

聖書にも、証の書にも矛盾するような表現が良くある。しかし、矛盾はしない。

「救い主の一つの言葉をもって、他の言葉を無意味にしてはならない」(大下 69)。

「七つの雷が声を発した後、小さな巻物に関して、ダニエルに命じられたように、『七つの雷が語ったことを封印せよ』という命令がヨハネに語られた。これらの事は、順序通り開かれる未来の出来事と関係がある。ダニエルは終わ

りの日に『立って、あなたの分を受ける（割り当てる地に立つ・新改訳）』のである。ヨハネは開かれた小さな巻物を見る。その時、ダニエルの預言は、世界に伝えられなければならない第一、第二、第三天使の使命の中で適切な場所を占めるのである。**開かれた小さな巻物は、時に関する使命であった。**

ダニエル書と黙示録は一つのものである。一つは預言であり、他は啓示である。一つは閉じられた書であり、他は開かれた書である。ヨハネは雷が語った奥義を聞いたが、それらを書き留めてはならないと命じられた。

.....

天使が厳粛な誓いをもって宣言しているこの時というのは、この世界歴史や恵みの時の終わりではなく、**預言的時の終わりのこと**であり、それは主の再臨に先行するものである。つまり、人々は**特定の時**について別の使命を持たないであろう。1842年から1844年までに及ぶこの期間の後には、**特定の預言的時**を追求することは

あり得ない。最長の算定は 1844 年の秋に達する。

一つの足を海の上に、他の足を地の上に踏みおろしている天使の位置は、その使命が広い範囲にわたって宣伝されることを意味している。それは広い海を渡り、他の国々へ、世界の果てまで伝えられるであろう。小さな巻物を食べるという描写は、真理を理解し、使命を喜んで受け入れることを意味している。我々の主の到来の時に関する真理は、我々の魂にとって尊い使命であった」(MS 59, 1900 年)。

質問：この言葉はいつ言われた言葉か？

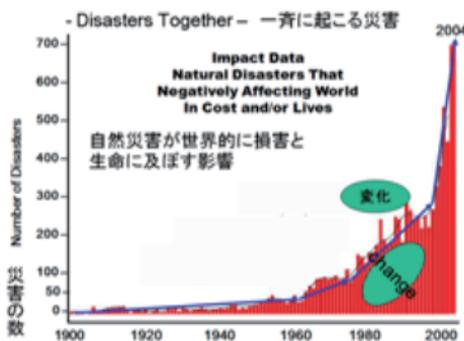
陣痛(産みの苦しみ)

最大危機の予兆
災害がひんぱんに起こる

日曜

最大

災害



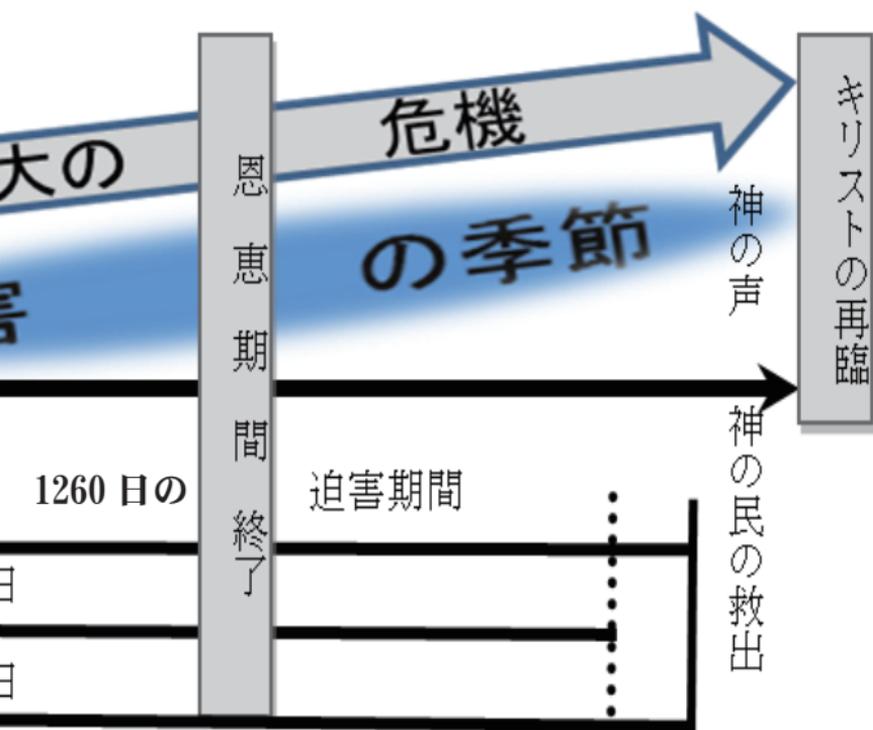
休業令

1290日

1335日

指数曲線

「定められた



「終わりの時＝エス・ケッス」

未来適用の理由

1. イエスの預言

マタイ 24：15 「預言者ダニエルによって言われた荒らす憎むべき者が、聖なる場所に立つのを見たならば（読者よ、悟れ）」

これは、①エルサレム滅亡のことと②世の終わりのことを指すと預言者は言っている。中世時代のことではない。もちろん中世時代にも適用できないことはない。しかし、あくまでも第二義的な意味である。

大上 12 「未来のことは、あわれみのうちに、弟子たちから隠された…神の民がそこに与えられている教訓を必要とするときに明らかにされるのであった。彼が言われた預言には二重の意味があった。そ

れは、エルサレム滅亡を予告するとともに、最後の大いなる日の恐怖をも予表していた。」

大上 25 - 26 「しかし、エルサレムに下った刑罰に関する救い主の預言は、もう一つの成就を見なければならない。あの恐ろしいエルサレム滅亡も、その出来事のほんのかすかな影にしかすぎないのである。…過去の歴史も、神の霊の抑制力が悪人たちから全く取り除かれ、人間の欲情とサタンの怒りを止めるものが何もなくなるその日の恐怖と比べると、もの数ではないのである。その時、世界は、これまでかつてなかったほどに、サタンの支配の結果を見るのである。」

中世時代のことをここで言っているのではない。未来のことである。

「エルサレムの滅亡は、世界を襲う最後の

滅亡の象徴である。エルサレムの破滅によって部分的成就を見た預言は、もっと直接的には、最後の時代に適用される」（祝福 151）。

ダニエル書に「**荒らす憎むべきものが立つ**」という事件が二つあると言っている。①は**エルサレム滅亡**、②は**世の終わり {未来} の事件**—過去に起こったことのないこと—パレスチナのエルサレムを襲ったものよりもっと恐ろしい破滅（大下 386、スタデーバイブル新 192）、中世時代のヨーロッパで起こったものよりもっと大きな世界的規模の事件。エルサレム滅亡のことは、ダニエル 9：27 にある。もしダニエル 12 章が 7：25、11：31 - 35 と同じ過去の中世のことだとすれば、ダニエル書のどこに②番目の未来の「荒らす憎むべきもの」があるだろうか。ない。ダニエル 12 章にしかない。どうしても 12 章は未来にとらなければならない。イエスがダニエル書にある、悟れとおっしゃったのは、中世時代のこと、また 1844 年まで延び

る期間のことでなく、終わりのことであるにちがいない。

2. 聖書の解釈で最も大事な原則一文脈から解釈してみよう

「この異常なできごとはいつになったら終わるのですか。」(口語訳)

「不思議なこと」(新改訳)

「これらの wonders (驚くべきこと、異常なこと、不思議なこと) (英文)。

これらの驚くべき、異常な、不思議なできごとはダニエル 11 章から 12 : 4 までの順序よく起こる出来事であり、特に 11 : 40 から「終わりの時」になって、世界の諸事件はクライマックスへと激変の中に展開する。

1. 終わりの時になって、北の王 (ローマ法王教) が世界を支配する

2. 「東と北からの知らせ」後の雨／大いなる叫びで、神の民が対決する
3. かつてないほどの大患難、大迫害
4. 神の民の救出
5. 特別な復活
6. キリストの再臨

ダニエル 11:40 ~のクライマックスに言及しないで、「これらの異常な出来事は、いつになったら終わるのですか」とダニエルは聞くだろうか。

ダニエル 12:7:「**これらの事はみな**成就する」のはいつかをイエスは、ダニエルに答えているのである。「**すべて**」と言っているからには、11:40 以降のクライマックスの諸事件を含まない、1798 年で終わった諸事件の事を指していると解するのは、まことに解せない。

3. 証の書

- ◆ **国下 156**「(ダニエル 12 章) この世界の歴史の終末が近づくとつれて、ダニエルが記した預言は、我々が住んでいる時代そのものに関するものであるから、特別に注意を払わなければならない」
- ◆ **手紙 161、1903. 7. 30.** 「ダニエル 12 章を読み、研究しようではないか。それは終わりの時の前に我々すべての者が理解を必要とするであろう (未来形) 警告である。」

クイズ 1. 上記の言葉はいつ言われたか？
1844、1888、1901、1903？

クイズ 2. もし、1903 年が正しい答なら、1903 年以前はダニエル 12 章は理解されていなかったことにならないか？ Yes か No「わたしは、1335 日は終わったのだという過去の誤りと、いくつかの誤りを H 兄弟に

告げた」(MR 5-203)。

- クイズ3. ホワイト夫人は、ダニエル 1335 日について誤っていることについて誰を譴責したか？
- クイズ4. この兄弟の誤りは何であったとホワイト夫人は言われたか？
- クイズ5. イザヤ 9 : 16 に何と警告されているか？
- クイズ6. もし、イエスが間もなく来られるとするなら、ダニエル 12 章を正しく理解することは非常に重要と思うか？ Yes か No

- ◆ 2RH「聖書の中には、特に我々の時代に関係する真理が提示されている。聖書の預言は人の子が現れる直前の期間に焦点を当てており、ここでの警告と威嚇は、特にその期間に当てはまる。大終結*の間際（前夜）まで延びているダニエルの預言的期間は、その時起こる諸事件にあ

ふれるほどの光（光の洪水）を投げかけている。黙示録もまた、最終世代のための警告と教えに満ちている…」(RH 1883年 9月 25日)。

- ◆ 「1335日」が過去に言及されていることは一つもないが、未来に言及されている。

MR 900, 33 (1893年) 「最後の時代についての幻の中で、ダニエルは、『わが主よ、これらのことの結末はどんなでしょうか』と尋ねました。主は、『ダニエルよ、あなたの道を行きなさい。この言葉は終わりの時まで秘しかつ封じておかれます。多くの者は、自分を清め、自分を白くし、かつ練られるでしょう。しかし、悪い者は悪い事をおこない、ひとりも悟ることはないが、賢い者は悟るでしょう。』 ….. 待っていて 1335日に至る者は幸いです。… 彼は終わりの日に理解されるべき (未来形) 証をしながら、立っています。」

◆ オーストラリアユニオンの会議記録

Vol. 11, No10. 1907年3月11日「今、今こそがみ言葉の真理を理解する絶好の機会である。この機会をみんなで生かそう。ダニエル書を読み、その教えを心にとめよう。『多くの者は、自分を清め、自分を白くし、かつ練られるでしょう。しかし、悪い者は悪い事をおこない、ひとりも悟ることはないが、賢い者は悟るでしょう。……

待っていて 1335 日に至る者はさいわい です。ユライヤ・スミスもジェームス・ホワイトも 11:40 からの預言は未来だと言っている。しかし、終りまであなたの道を行きなさい。あなたは休みに入り、定められた日の終りに立って、あなたの分を受けるでしょう』。ダニエルは今日、証をするために立ちあがっている（現在進行形）のであるから、我々は彼に人々に語る場を与えよう。我々の使命は燃える灯のように前進すべきである。」

4. 黙示録 13 章の事件とダニエル 12 章の「荒らす憎むべきもの」が立つは同じ事件

未来の 1260 日すなわち、42 か月の迫害の期間。従来の解釈はこの 42 か月も過去の中世時代に適用している。ここは文脈が象徴的だから、タイムラインを 1 日 1 年と計算し、過去の中世時代の 1260 年と解釈したくなる。なぜなら、預言者は「象徴や比喩が用いられていないかぎり、その明瞭な意味（字義通り）に従って解釈されるべきである」（大下 365）と言うであろう。まことに然りである。

しかし、聖書解釈にはいくつかの解釈があることを覚えよう：

- ① 文脈
- ② 「象徴や比喩が用いられていない限り、その明瞭な意味（字義通り）に従って解釈されるべきである」（大下 365）。
- ③ 「救い主の一つの言葉をもって、他の

言葉を無意味にしてはならない」(大下69)。

例：ヘブル9:27に「そして、一度だけ死ぬことと、死んだ後さばきを受けることとが、人間に定まっているように」とある。しかし、死なない人もいることが聖書の他の個所にある。エノク、エリヤは死なないで昇天した。144,000は死なない。

- ④ 預言者の霊は預言者に従う (1コリント14:32)。
- ⑤ 二重の適用

黙示録13章の場合はどうしたらいいか？

- ① 文脈から言うと獣の傷が完全に癒されて新世界秩序が構築されてから42か月だから字義どおり1260日に違いない。
- ② 二重の適用—中世時代にも適用されるだろうが、未来にも適用される。

預言者にはその権利が与えられているのだ。

聖書には二重の適用がたくさんある。

たとえば：

ホセア 11:1「わたしはイスラエルの幼い時、これを愛した。わたしはわが子をエジプトから呼び出した」これはイスラエルのエジプト脱出のことだが、マタイ 2:15 にイエスをエジプトから呼び出したとイエスに適用している。

③ 預言者は何と言っているか？

黙示録 13 章の 42 か月を 未来に適用している

19MR 282 「終わりの時代にサタンは大いなる力と天の栄光を持つ光の天使として現れ、全地の主であると主張するであろう。彼は安息日は第七日から週の第一日に変えられたと宣言するであらう。そして週の第一日の主であり、この偽りの安息日を彼に対する忠誠のテストであると指し示すであらう。その時、黙示録の預言が最終的に成就するであらう。[黙 13:4-18 を引用]」

19MR 182 「安息日問題は、全世界が関わる大争闘の論点となるであらう。[黙 13:4-18 を引用]」

預言者が42か月を未来に適用しているなら、我々は何も言えない。

「救い主の一つの言葉をもって、他の言葉が無意味にしてはならない」(大下69)。全部の引用文を調べる必要がある。

5. 1843年の図表「いくつかの数字の誤り」 (初代155)を認めて、1850年の図表には 1335日あるいは1290日を入れていない

常供が取り除かれ、荒らす憎むべきものが立ったのはまず、533年にユスティアヌス帝勅令が書かれて、実際に法王至上権が確立した紀元538年であった。508年のフランク王、クロービスがカトリックに改宗することはどんな意味があるのだろうか。

6. マーヴィン・マックスウェル博士もダニエル12章の「1290日、1335日の二つの時

の預言がいつ成就するかについては、はっきりしたことは言えない。」と言っている。
(God's care Vol.1,292)

7. 村上良夫先生は「確かなことは分からないと言うのが正直なところです」と言っている。(ダニエル書講義「王とわたしと主の祈り」p222)

8. マタイ 24:15 とダニエル 12 章で与えられている警告は、米国における日曜休業令のこと。

- ① 都会脱出のしるし
- ② 国家の破綻、荒廃が間もなくやってくるというしるし
- ③ 「最後のテスト」のしるし

- ④ 生けるものの裁きが始まるしるし
- ⑤ 罪の除去、後の雨、神の印、大いなる叫びのしるし
- ⑥ 最後の教会の徹底的「震い」が始まるしるし
- ⑦ 迫害が始まるしるし

神が送られる光を無視することは、 救いと関係があるだろうか？

「真理と神の栄光とは、切り離すことができない。われわれは、手近に聖書を持っていながら、誤った見解をもって神をあがめることはできない。多くの人々は、生活さえ正しければ、何を信じているかは問題ではないと主張する。しかし生活は信仰によって形造られる。光と真理が手近にありながら、それを聞き、それを見る特権を利用するのを怠るなら、われわれは事実上それを拒絶し、光よりもやみを選んでいることになる。

「『人が見て自分で正しいとする道があり、その終りはついに死にいたる道となるものがある』（箴言 16：25）。神のみこころを知るあらゆる機会がある時に、知らないということは誤謬や罪の言いわけにならない。人は旅をしてい

て、それぞれの行く先を示す道標のある別れ道にさしかかる。もし彼が道標を無視して、自分に正しいと見える道を選ぶなら、彼がどんなにまじめであっても、自分がまちがった道を歩いていることにおそらく気づくであろう」大争闘下 364

「人間は、神があわれみのうちにお与えになった警告を拒否して無事ではあり得ない。…そして、彼らの救いは、彼らがその使命をどう受けるかにかかっていた」(大争闘下 149)。

「未来のことは、あわれみのうちに、弟子たちから隠された。もしも、彼らがこの時、贖い主の苦難と死、そして都と神殿の破壊という二つの恐ろしいできごとを全部知ったならば、彼らは恐怖にうちひしがれたことであろう。キリストは、終末の前に起こる主要事件のあらましを彼らに示された。そのとき、彼の言葉は十分に理解されなかった。しかし、その意味は、神の民がそこに与えられている教訓を必要とする

ときに明らかにされるのであった。彼が言われた預言には、二重の意味があった。それは、エルサレムの滅亡を予告するとともに、最後の大いなる日の恐怖をも予表していた」(大争闘上 12)。

「聖霊の特別の光に浴した預言者たちでさえ、自分たちにゆだねられた啓示の意味を、完全に理解してはいなかった。その意味は、神の民が、そこに含まれている教えを必要とするにしたがって、代々にわたって示されるのであった」(大争闘下 36)。

「新教教会が手を伸ばし、深淵の向こうにあるローマ教会の権力の手をとり、奈落の向こうにある心霊術と握手しようと手を伸ばす時、また、この三者の結合による勢力下に米国が新教共和政体としての憲法の原則をことごとく放棄し、ローマ法王の偽りとあざむきの宣伝に道を

備えるその時こそ、われわれは、サタンの驚くべき働きがやってきたこと、また、世の終わりの近いことを知るのである」(5 T451)。

「我々は、サタンの驚くべき働きがやってきたこと、また、世の終わりの近いことを知るのである」(2 SM 81)。

しかしまた、「神のはたらかれる時が来たことを知りなさい」(7 BC980)と主の僕は言われた。詩篇 119:126 に「彼らはあなたのおきてを破りました。今は主の働かれる時です」と書いてある。

その時こそ、サタンと神と神の民にとって正念場、決戦の時となる。これらすべてのことがダニエル 12 章の 1260 日、1290 日、1335 日のこの短期間に成就するのである。

「主はこう言われる、『あなたがたはわかれ道に立って、よく見、いにしえの道につき、良

い道がどれかを尋ねて、その道に歩み、そしてあなたがたの魂のために、安息を得よ。しかし彼らは答えて、『われわれはその道に歩まない』と言った。

わたしはあなたがたの上に見張りとを立て、『ラッパの音に気をつけよ』と言った。しかし彼らは答えて、『われわれは気をつけることはしない』と言った」(エレミヤ6:16-17)。

「多くの者は、自分を清め、自分を白くし、かつ練られるでしょう。しかし、悪い者は悪い事をおこない、ひとりも悟ることはないが、賢い者は悟るでしょう」(ダニエル12:10)。

「しかし、思慮深い者たちは、自分たちのあかりと一緒に、入れものの中に油を用意していた」(マタイ25:4)。

もっと詳しく研究なされたい方のために...



“スタディバイブル”



口語訳
解説付き聖書
各 10,000 円

標準型 (幅 153mm、高さ 220mm、厚さ 38mm)
余白付大型 (幅 165mm、高さ 235mm、厚さ 38mm)

難漢字ふりがな付き。上質の合成皮革。E. G. ホワイトの注解、脚注、引照付き、地図、チャート、金のりんご、聖書語句索引、口語訳聖書の標準ページを左右余白に付記。

お問い合わせ、お申込みは下記の連絡先まで

サンライズ ミニストリー

〒905-0428 沖縄県国頭郡今帰仁村字今泊1471

TEL(0980)56-2783 FAX(0980)56-2881

contact@srministry.com www.srministry.com